

「空気環境（空気質と風速）の測定」に関する レポートの内容について

※レポートには、以下の内容などを記入すると良い。もちろん、この他に付け加えても良い。

今回のレポートでは、

- 「室内の空気質（揮発性有機化合物）測定と評価」
- 「室内の空気質（一酸化炭素と二酸化炭素）測定と評価」
- 「室内の空気流動」

の3つに分けて書いた方が書きやすいかもしれない。

1. はじめに

- ・音環境の測定のレポート内容に関する補足を参照。

2. 実験の方法

- ・音環境の測定のレポート内容に関する補足を参照。
 - ・測定の対象については、空気環境に影響を与える要因は是非記入しよう。
- 開口部の位置や大きさ、空調の on/off、空調の吹き出し口の位置や大きさ、在室者数など

※知らない人が読んでも、同じような測定を行えるかどうか、がポイント

3. 実験の結果

- ・揮発性有機化合物の測定については、気温の影響を勘案して測定値を補正する。
- ・項目も少ないので、グラフではなく、表でも良いかもしれない。
- ・5ヵ所以上で、2項目（一酸化炭素と二酸化炭素）×2種類の測定器（検知管とCO/CO₂モニター）の結果が一目で解るようにグラフを作成。時系列の変化ではないので、棒グラフか。
- ・風速の分布図を作成する。可能であれば、風向も同じ平面図に書き込むとわかりやすい。風速や風向に影響を与える様々な要因についても書き込むと考察がしやすい。

※グラフは、見やすいように努力する。また、レイアウトも見やすくする。その際、横軸と縦軸が何を表しているか、と、単位を忘れないようにする。

- ・できれば、グラフの見方も説明する。どこのグラフ？軸のラベルは何を表す？読み取る際の

注意事項は？

- できれば、グラフから読み取れることを1つの文章くらいにまとめておく。

4. 考察

• 結果を「合理的」に解釈する。こんなことが言えるのではないかと考える。

• 矛盾があるところや違いがあるところが着目点！

- 揮発性有機化合物の結果については、基準値と照らし合わせる。ただし、基準値の持つ意味に注意。さらに、どうしてそのような結果が出たのかを推測する。
- 一酸化炭素と二酸化炭素の結果も、揮発性有機化合物の場合と同様。さらに、二酸化炭素の濃度は、換気ができているか否かの指標としても使われる点に注意したい。
- 風向と風速の結果から、室内の空気の動き方がどのようになっているか、推測する。できるだけ影響する要因を考え、合理的な推測を行いたい。可能であれば、模式図などに表現しても良いかもしれない。
- 室内の風速に関する基準値は、それほど多くはない。
- 風速が大きい＝流動する空気の量が多い、ではない点に注意。
- 異なる2室を測定した場合は、どうして2者で差が出ているのかを推測する。

5. 感想

自由に。